

# 第5回 宮本三郎記念 デッサン大賞展

## 明日の表現を拓く



大賞 植野 大作《思い出のコラージュ》2019年

### 第5回 宮本三郎記念デッサン大賞展 ー明日の表現を拓くー

2020年1月25日(土)～3月15日(日)

世田谷美術館分館

### 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

展覧会名 第5回 宮本三郎記念デッサン大賞展 ー明日の表現を拓くー  
会 期 2020年1月25日[土]～3月15日[日]  
会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum  
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 [www.miyamotosaburo-annex.jp](http://www.miyamotosaburo-annex.jp)  
主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館  
開館時間 10時～18時(最終入館は17時30分まで)  
休 館 日 毎週月曜日(ただし、2月24日[月・祝]は開館、2月25日[火]は休館)  
観 覧 料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上、中小生100円(80円)、  
障害者100円(80円)ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者(当該障害者1名につき1名)  
は無料 ※( )内は20名以上の団体料金 ※小・中学生は土、日、祝・休日は無料

## ◆ 宮本三郎記念美術館

### ◆ 宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

### ◆ 宮本三郎記念美術館について

洋画家・宮本三郎（1905-1974）が長きにわたり制作の拠点とした地に、世田谷区が建設した美術館で、2004年4月に世田谷美術館の分館として開館しました。展示室において年2回開催する収蔵品展を通じ、宮本三郎の画業を様々な視点からご紹介する他、館内の講座室では、講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。

### ◆ 当館では年間を通して講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。

[参考] 2019年の活動



ニューイヤー・コンサート  
アコルディ弦楽四重奏団  
(2019年1月27日撮影)



人ひろばvol.44  
「奥沢・玉川の地域の歴史再発見！第2弾」  
(2019年9月8日撮影)



子どもとおでかけ美術館  
「ふうけいのおはなし会」  
(2019年11月16日撮影)

### ◆ 交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス（渋11） 渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス（園01） 千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります

### ◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館（広報担当）

Email：miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL：03-5483-3836 FAX：03-3722-5181

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

## ◆第5回 宮本三郎記念デッサン大賞展 ー明日の表現を拓くー

このコンクールは、優れた素描家として知られた画家・宮本三郎にちなみ、「デッサン」をテーマとして開催してきました。「明日の表現を拓く」というサブタイトルには、個々の作家の表現の根底にひろがる多様なイメージが、今日的な表現の地平を広げていくことへの期待がこめられています。

第5回となる今回は、979点の応募作品の中から、厳正な審査により入賞13点、入選37点の作品が選ばれました。

人類の長い歴史を顧みたととき、一本の線は絵画表現のみならず、文学、音楽、建築など、あらゆる表現や創造の最初のステップとなっています。その一本の線を作家の心の率直な発露とみなせば、線の積み重ねや交錯は、まさに作家の葛藤や、自身がめざすイメージに近づこうとする痕跡として受けとることができます。今を生きる作家が示した作品の数々を通じ、時代と連鎖しながら変容する新たな表現の可能性を感じとっていただければと思います。

※本展期間中、宮本三郎作品は限定的なコーナー展示となります（油彩3点、水彩・素描5点）。

### ◆入賞者とのギャラリートーク

入館料のみでどなたでもご参加いただけます。

日時 2020年1月25日[土]13:30～14:30

聞き手 大橋由美子（小松市立宮本三郎美術館学芸員）

場所 当館2階展示室

参加費 無料（観覧料別途）

※事前申込不要（当日会場にお越しください）

◆各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。 ※（ ）は題不詳につき仮題



大賞 植野 大作  
《思い出のコラージュ》2019年

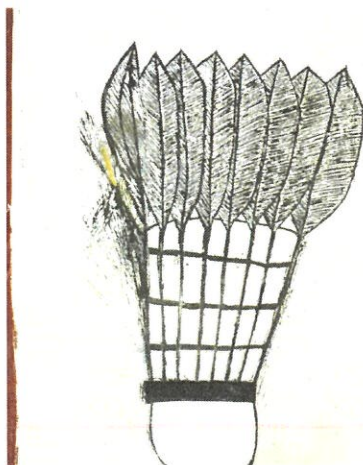


宮本三郎記念賞 二ノ宮 美羽  
《こち》2019年



優秀賞 中西 徹  
《MUGIWARA》2019年

■宮本三郎作品 ※宮本三郎作品は小コーナーでの展示となります



優秀賞 湯浅 景子  
《シャトル》2018年



《ヴィーナスの粧い》1971年



《(ベレー帽 自画像)》1967年

※（ ）は題不詳につき仮題